

近視の私が眼鏡もなくて 明きめくらの抑留生活

岐阜県 加藤 寅 三

昭和十九（一九四四）年十月、広島に集合し、満州大肚子川第三七五二部隊に現役入隊しました。

昭和二十年八月九日、ソ連参戦、満州進攻とともに私共の南への逃避行が始まりました。

八月十六日、武装解除、十日間くらい徒歩で連行され、入ソいたしました。昭和二十四年七月復員まで約四年間の抑留生活でした。

抑留中はほとんど伐採作業でした。大きな木を切り倒し、枝を全部取り除くのです。雪の中での作業はつらい毎日でした。

満足のいくような食糧は与えられず、毎日が空腹の連続でした。道に落ちてゐるジャガイモの腐ったのやキャベツのしんなど、手当たり次第拾ってきて飯盒で

煮て食べました。餓鬼道とはこのことか、哀れとも思ひながら、誰もがやりました。

病氣になつて休んだり、何回、作業隊と病院を往復したことでしょう。太ったり、やせたりとの連続でした。よくもまあ命があつたものです。これも若さのせいであつたとしみじみ思っております。

一番困つたことは、眼鏡の予備がなくて、近視の私は、まるで明きめくら同様でした。

コムソモリスク、この名前を聞かたびに、うらめしいような、それでいて何か懐かしいような、複雑な気持ちです。私達はなぜこんなひどい目に遭つたのでしょうか。今更何をしてくれとは言いませんが、せめてロシアは抑留の実態について、いい加減なウソはやめて真実を明らかにして、真摯な謝罪の姿勢を見せてほしいと思います。

私も、もう一度現地へ渡つて、あの地に命を落とした多くの戦友達の御墓参りをしたいと思つておりますが、残念ながら、昨今体の調子が思わしくなく、それも行けそうにありません。はるかに安らかな冥福

を祈ってやみません。

ロシアで受けた政治教育

岐阜県 梶田利男

昭和二十（一九四五）年五月、満州黒河山神府九八四輜重隊に入隊。七月にチチハル挺身大隊に転属。八月、ハルビンで終戦、武装解除を受けて、十月に貨車に積み込まれて入ソ。十一月、タイセツト地区カस्ताマール収容所へ入る。作業は伐採であった。

二十一年、イルクーツクにてソフホーズ農作業。

二十二年、グリシオにてブロック製造作業。

二十三年、チェレンホーボーにて炭坑作業。

食糧はエンバク、小豆、黒パン、ニンジン等満足にはほど遠い、量質ともに最低であった。

イルクーツク政治学校へ六カ月入校し、政治教育を受けた。日本人の共産党員が、マルクスから始めて、日本の旧体制打破を熱心にアジっていた。若い僕

達は、そんなものかなあと思った程度で、特に影響はなかった。あれもこれも、日本へ帰るための儀式だと割り切って行動をした。

このように現地で政治教育を受けた者がたくさんおられます。そのほとんどの人達が、帰国後半月くらいですべてを洗い流してしまっていると思います。

昭和二十四年九月、ナホトカより乗船、舞鶴上陸、復員。

食事は馬糧の

大豆、コウリヤン、

豆かすであった

岐阜県 古田 強

昭和十九（一九四四）年九月一日、名古屋第一三部隊入隊。九月四日、下関港より出港。九月十五日、満州第二六三部隊入隊。

昭和二十年三月一日、満州第二六三六部隊配属。八